

学校だより

よく考え 励まし合って やりぬく子
よく考える子 励まし合う子 やりぬく子



TEL : 69-2029 FAX : 69-4448 HP-URL : <http://www.tanpopo.ne.jp/~ohyabu/index.htm>

「みんなが誇る学校づくり」のために

学校経営方針の「みんなが誇る学校」にするために、昨年度は「たいせつに」を合い言葉にしてきました。子どもたちが大切にしてきたものは、「仲間」「自分自身」「合唱」「校舎」「野菜」「めあて」や「約束」です。

その成果として、子どもたちが元気になり、欠席ゼロの日が6日もあったり、人権教育協議会から「ひびきあい賞」をもらったりしました。きっと子どもたちは「大藪小学校って、いい学校なんだよ。」と誇りに思っていると思います。本年度は、さらに「保護者」や「地域」のみなさんも「大藪小学校って、いい学校なんだよ。」と自慢でき、誇りに思える学校を目指します。

私が課題としてとらえていることは、「○○○○」です。なかなか揃わないのです。子どもたちも自覚していて、全校朝会で「これが大切にされていません。」と言ったら、「スリッパやー。」と言っていました。裏返ったり、遠くに飛ばされていたりします。

ここで注意が必要なのですが、私が育てたいのは「散らばっているスリッパを揃える児童」ではありません。そのような奉仕の心をもつ子は、すでにたくさんいます。特に6年生にたくさんいます。育てたいのは、「自分が履いていたスリッパを丁寧に脱ぐ児童」です。それができる子は、「心配り」ができる子ですから、いろいろなことに気付くことができます。学習も効果的にできますし、いじめもしません。

そんな児童を育てるために、今年も、わたしたち大藪小学校職員は「ほめ上手」「しかり上手」な職員集団を目指します。キーワードは引き続き「感動」「価値」「存在」です。

ご家庭でも、「スリッパを揃えて脱げたね。(感動)」 「次の人が履きやすいわ。(価値)」 「さすが○○。(存在)」とほめてください。

そこで、私から職員へは、「その場でほめることや、児童とのふれあいを大切にするために、

- ①教室の掲示物に時間と手間をかけない。
- ②ノートや作品への朱書きを簡略化する。
- ③休み時間は児童と遊ぶ。と強く伝えてあります。ご理解、ご協力をお願いします。

このことは、現在の日本の課題である「働き方改革」にもつながっています。資料にある「ノ一残業デー」の取り組みも同じです。皆さんもご承知のとおり、教職員は多忙を極め、教員になりたいと考える若者はどんどん減っています。夢のある職業であるにもかかわらず、実状はブラック企業だと言う人もいます。

実際に、年度途中で産前産後休暇や育児休業をとると、先生不足で代替りの先生が配当されず、教務主任が担任を兼務するという事態も発生しています。これでは、子どもの学力が十分に保障されません。日本の教育レベルを下げないために、教職員の仕事量のスリム化が必要です。お願いばかりで恐縮ですが、ご理解、ご協力をお願いします。

最後に、災害発生の危険が予測されるとき「お迎え訓練」ですが、本年度は、より実際を想定して、園児から中学生までを対象に、合同で行うこととなりました。また、その名称ですが、輪之内町では「引き継ぎ」と呼ぶように変更しました。これまでの「引き渡し」というのは学校からの目線の言葉で、保護者から見れば「引き取り」であることや、「引き渡し」の響きが「引き回し」みたいで感じが悪いという意見があったのが、その理由です。お子さんのたいせつな身体や命を「引き継ぐ」と同時に、お子さんの状況や災害情報も引き継ぐという意味です。ご承知置きください。

(ここまでの文章は、PTA総会「校長あいさつ」の原稿です。)